

■三浦命助 義民。仙台藩三閉伊一揆指導者として捕らえられ、家族に言い送る4冊の帳面や経巻を遺して、獄死。

みうらめいすけ
・ ・ ・ ・ ・ 1820＝ 奥州盛岡藩領上閉伊郡栗林村で、肝煎筋の分家長男に生まれる。

農耕を中心に諸稼ぎで暮らす、惣百姓意識が強く、鉱山業や流通業も盛んな地域に育つ。

シボ^ル事件・1828＝ 8歳：
シボ^ル追放・1829＝ 9歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1836＝16歳：秋田藩院内銀山へ稼ぎに出る。
大塩平八郎乱1837＝17歳：
適塾オープン・1838＝18歳：父の死で帰村し、まさと結婚、のち、男児3人、女児3人を得る。本家の当主も死去していたため、
蚕社の獄・1839＝19歳：以降、太平洋岸沿いの三閉伊通と呼ばれる農漁村を回って、農産物や海産物の荷駄商いをして、自らの家族だけでなく、本家の家族も養う。

蝦夷地警備を課されて財政難になった盛岡藩が、経済活動の活発な太平洋側の諸村に、臨時の御用金を課したことから、もともと、一揆が多かったところが、藩政に対抗すべく、大規模化、

阿部正弘首座1845＝25歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1847＝27歳：前例のない規模の、“三閉伊一揆”が発生、

ペリー来航・1853＝33歳：*“三閉伊一揆”が再び起きると、指導者の一人として活躍。1万余の百姓が藩政を批判、隣接の大藩仙台藩領へ逃散し、藩主へ越訴、代表のみ居残りが認められて交渉。惣百姓の立場で、50箇条以上にもなる要求に加え、盛岡藩主の交替・三閉伊通りの百姓の救済・三閉伊通りの公儀領化さもなくば仙台藩領に支配替えという大胆な要求をし、仙台藩のお蔭で、指導者には一切咎めない約束を取り付けた上、多くの項目が認められて終息。村の老名役に選ばれるが、やがて村内の意向と食い違ふようになり、
開国開港・1854＝34歳：*金銭上のトラブル、代官所の尋問で事態が暗転、身の危険を感じ、家族を残して、剃髪し、仙台藩領に出走。時折、密かに自宅に舞い戻りながら、僧明英として、京都醍醐三宝院が本山の修験当山派東寿院の後住に認められ、村中の信用も得て、祈祷と農作で暮らすようになる。

松下村塾・1856＝36歳：
蕃書調所・1857＝37歳：*正式に院号や錦地を取得すべく、上京して認められた上、醍醐三宝院家来の紹介で、二条家の家来になることも認められる。おそらく朝廷の権威を借りて弁明しようと、盛岡藩へ入ろうとして見破られ、永牢。

安政の大獄・1859＝39歳：獄死を覚悟し、独自の道徳観で、残された家族への助言や遺言的感慨を表す3冊の帳面、

桜田門外変・1860＝40歳：
遣欧使節・1861＝41歳：さらに、1冊の帳面を書いたが、
禁門の変・1864＝44歳：*獄中6年8ヵ月にして牢死した。